

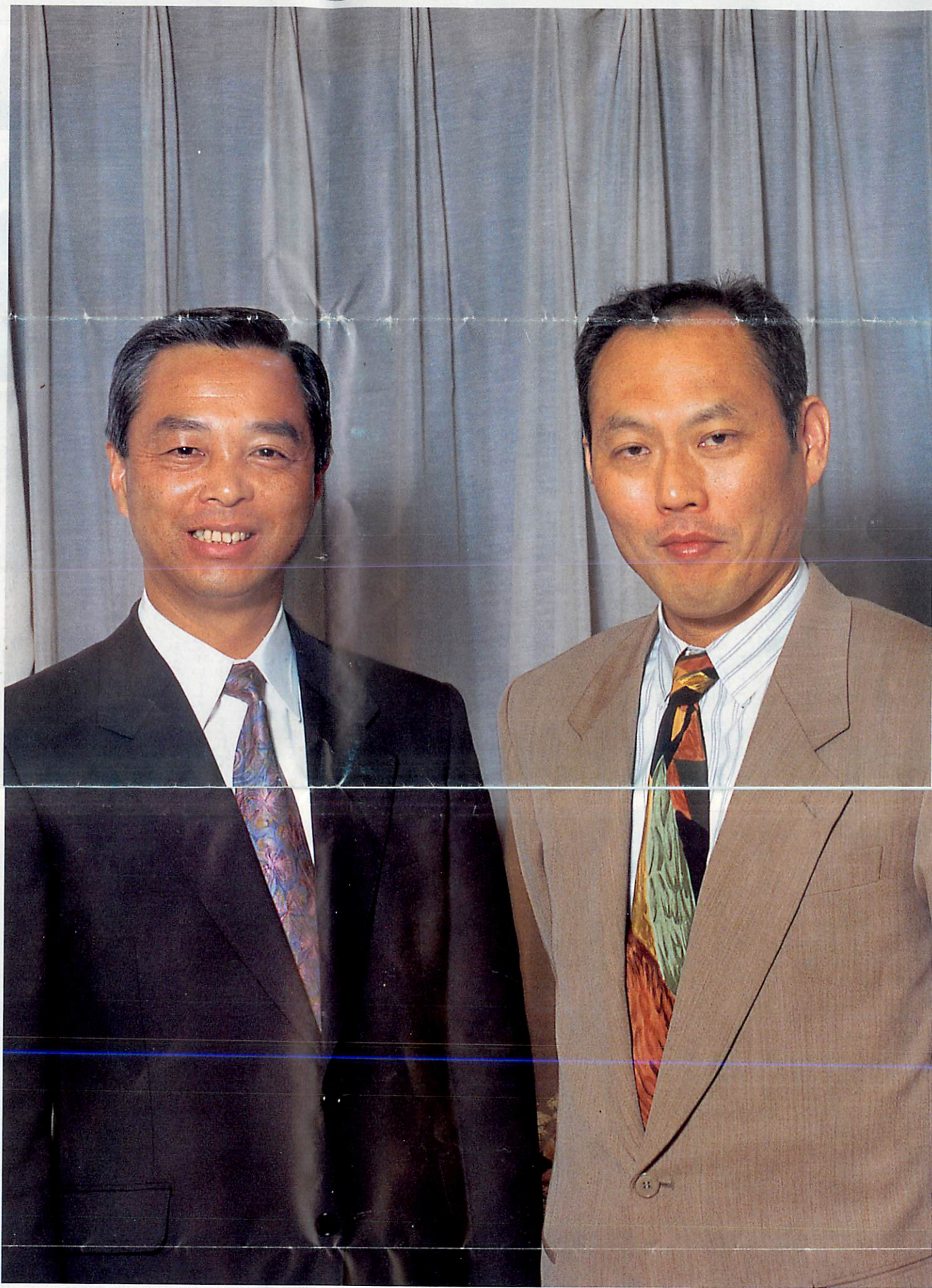
小

川

OGAWA
ISSEI

一

成



明日の茨城を考える

舛添要一氏と語る

特集●対談

『これからの県政』

小川 一成

自然環境と都市開発が共存する町、取手・守谷

小川 今日はお忙しいところ遠くまで有り難うございます。

舛添 どうもお久しぶりです。茨城というと、東京から遠いなあとイメージでしたが、上野から取手まで40分位と、時間的には非常に近いので驚いているんですよ。小川さんのすんでらっしゃる取手・守谷というところは、私が驚いたほど東京に近い割に、自然が残っていて良いところですね。

小川 茨城県は、今まで開発が遅れていたんですが、その遅れていたことが自然環境のためには幸いしたんですよ。

舛添 それはどういう意味ですか。

小川 先程先生がおっしゃいました様に、東京から遠いというイメージからか、乱開発されなかったことが結果的には幸いしたんですよ。舛添 ホーそれは良かったですね。それでは、都市基盤の整備等はこれからですね。

小川 それが、特に守谷町は茨城県の中でもトップに入るほど下水道の整備がされているんですよ。

舛添 それも珍しいケースですね。

小川 はい。この事は、行政と住民の皆さんが、焦らずじっくりと計画して、開発と整備をしていった成果ではないかと思えます。

舛添 いわゆる乱開発を皆さんで防いだけですね。

小川 はい。

舛添 とところで、交通のアクセスは、これから何か計画されているんですか。

小川 常磐新線が昭和六十年六月に閣議決定され、平成六年度より用地買収に入るという段取りになっております。現在、秋葉原・守谷町の間ですと都心まで35分で行くことができます。

舛添 それでは交通網の整備は着々と進んでいるわけですね。私が、地方の開発・自立等の問題を話すとき、北海道や九州とかでしたらまだ話し易いのですが、ことこの関東一帯になると、地方と見た方がいいのか、東京圏と見て東京と一体化するとした方がいいのか、非常に難しい。ある意味では、札幌や福岡は地方の自立と言ってしまえばいいのですが、茨城や千葉・埼玉・神奈川はどう見たらいいのか。例えば、住まいは地元でも職場は東京という方がかなりいらっしゃる。小川さんの地元もそうじゃないですか。

小川 茨城の中でも、取手市・守谷町は特にその傾向が強いです。



を貸してくれているわけです。保存樹林制度を導入して、住民皆さんの意識を高めてもらおうと、この六年間提言してきたのですが、やっと昨年「緑化基金条例」というものができまして、ふるさと創生事業の中で、一億一千万円の基金を作ったというところなんです。けやきの大木等残さなければならぬ樹林を、市や町として、その地主さん達に働きかけ、保存を呼びかけているところなんです。

舛添 林野庁でも、森林で休暇を過ごそうという大きなプロジェクトを、全国レベルで展開して、宿泊施設を作ったり、遊歩道を作ったり、散策コースを作ったり、お寺や武家屋敷など、その町の特徴を打ち出していこうというものなんです。

小川 ここも歴史が大変古くて、新しい道路を作ろうとすると、縄文・弥生の遺跡が出たりするんですよ。一時期全国的に古い地名等の呼称がなくなりかけたことがありましたが、もう一度見直して、歴史的な地名等を取入れたまちづくりをしていかなければいけないと、私も提言しているところなんです。

舛添 そうする事で、住民の定着意識が高まってくるんですね。

日本の国際交流は 地方自治体と民間レベルから

小川 地味な事ですが、やり続けなければいけないと思います。ところで話は変わりますが、日本の国際化という事に関しまして、国際政治学者としましては何が大事だとお考えですか。

舛添 まあ、地域によりけりなんですけど、ホームステイでお互いに受け入れる事を、地方自治体レベルでどんどんやるのが大事だと思います。中央政府の付き合いだけでなく、地方レベルの草の根の付き合いや民間の付き合いなど色々な付き合いが大事なんです。小川 何本ものパイプを持つということですね。舛添 やはり、パイプの数の違いが戦前のよ

本で勉強した人なんです。そういう人達の同窓会がありまして、大変親日家で、我々が行っても皆さん歓迎して下さるんですよ。アジアと日本が非常に親しくするのはいい事です。小川 その通りですね。

国際交流が高齢者の生きがいに

舛添 私がフランスで勉強していた頃、地元の人達がやってくれた事で一番嬉しかった事は、ピクニックへ連れて行ってってくれるとか、教会巡りに連れて行ってくれた事なんです。ですから、日本に勉強に来ていた外国人達に対して、誰も案内してくれない、お金もないという時に、地元のボランティアの方々が案内してあげたり、そんなに馳走でなくても、皆で食事したり、ピクニックに誘ってあげたりはできるわけです。それともう一つ、その過程で一番大切な事は、日本語を教える事なんです。

小川 そうですね。私も外国で生活していた時に、ボランティアのおじいちゃん・おばあちゃん、分らなければ分るまで徹底して、丁度私達が子供に教えるのと同じ様に、知っている言葉を使って、難しい言葉を分り易く教えてくれました。ボランティアのおじいちゃん・おばあちゃんが町を案内してくれた時、ゆっくり話してくれるので、すごく分り易いんですよ。ですから、外国の人に教える時は、ゆっくり話してくれる人の方がいいんじゃないかと思っています。

ご期待に添えるように頑張ります。



舛添 週末のボランティア活動でもいいんですけど、おじいちゃん・おばあちゃんには歴史も知っているし、経験も豊富な訳ですから、休

県政の旗振り役を小川さんに是非お願いしたいですね。

要 小川 添

舛添要一(ますぞえ よういち) 1948年福岡県生まれ。東京大学法学部卒業。その後、フランス政治学院などを経て、1979年より東京大学教養学部政治学助教授となる。1989年同大学を退官。現在、国際政治学者。著書に『現代国際政治入門』『舛添要一のこれが世界の読み方だ』『1995年日本と世界はこう変わる(共著)』『日本と世界はこれからどうなる(共著)』以上PHP研究所)等がある。



舛添 そうしますと、これはどういう形で地方自治ですとか自立を考えた方がいいのか難しいわけ、東京圏の一つとして伸びる道を考えたほうがいいのか、かといって自立か、というジレンマがあるわけで、取手・守谷の場合はどうですか。

小川 流入人口が急激に増えていまして、ジレンマの真っただ中という感じですね。

舛添 一挙に増えたわけですね。そうしますと、新しく越してらした方達の郷土意識というものはどうなんでしょうか。

小川 私はあると思います。今が快適ならいいという事ではなく子供達にとってここが故郷と言える様な町であって欲しい。その為には自分達も共にアセを流してまちづくりに参加していこうという意識があると思います。

舛添 なる程。当然、学校や病院等の公共施設も必要になってきますが、この事はうまく行っていますか。

小川 学校は毎年増えていますし、規模の大きい病院も進出してきています。

舛添 では、地価の動向にしてもバブルの時は、かなり動きましたか。

小川 そうですね、昭和六十三年から平成三年位まで、あっという間に上がってしまいましたね。

「緑化基金条例」で緑の保存を

舛添 先程、乱開発がなかったから、自然が沢山残っているとおっしゃいましたが、大きな森や林がかなり残っているわけですか。

小川 私が子供の頃と比べると、かなり緑は失われましたけど、舛添さんが驚かれたようにまだまだ自然は多く残っています。

舛添 私がアウトドア派なものですから、森林を守るといって、岐阜県の知事さんから梶原さんという方が一生懸命やっておられて、そこでボランティア活動で、岐阜県森林愛護隊”というのを作りまして梶原知事から「隊長に」と言われまして、全国から隊員を公募しまして、やっと昨年発足したわけです。杉や檜の荒廃を少しでも食い止めようと、私など大した事はできないのですが、そういう活動の中から、自然保護について若い人達の意識を盛り上げることのお手伝いをしていっていますよ。

小川 緑の保護ということにつきましては、どう緑を造るかということよりも、今ある緑をどう保存していくかが急務の政策だと思えます。元々農業の盛んな所ですから、その農家を守る防風林的な意味合いの屋敷林や、利根川や鬼怒川等の斜面林の保存に、住民が力

うにならないんですよ。そういう取組みみたいな事はやられているんですか。

小川 今年で五年になります。青少年の人材育成ということで、毎年アメリカのコロラド州デンバー近郊のウエンザーという所に二十四名の中高生をホームステイに送り出しています。昨年その隣のグリーリー市と姉妹都市を結びましたので今年からはこちらの方に派遣しようと思っています。

舛添 こちらへも受け入れていらっしゃるんですか。

小川 四年間ずっとお世話になってきていますので、今年是非来て欲しいと働きかけをしているところです。それに合わせて、英語の先生もグリーリー市民の方に来て欲しいと市長にお願いしています。

舛添 ジェット計画とか言っていて、外務省が計画していますよね。あれは大変喜ばれて、今円高ですから先生としていらつしやる人達も、日本でお金を貯めて帰国して頂ければ結構なんですけど。小川さんが言い出せば結構なりになった、国際交流協会の活動はその後どうなっていますか。

小川 現在、協会に自主的に入ってきた方々が五百名を越しております。その方々が国際交流は市民交流であるとの意識のもとに自らが学び、参加し汗をかいて着実な活動を展開しております。更に国際交流協会の中に自然発生的にスリランカの子供達の就学を援助する会というのができてまして、僅かではありますがその基金を提供することで、子供達が一年間学校で勉強することができています。それと、JICAの方々がつくば市の方へ来られるんですけど、地元の方々と交流したいという強い希望があるんですが、なかなか近隣の市町村がどう受け入れていいのか分からないところもあって、守谷町のホームステイ委員会が中心になって、受入れをしようというパターティーを行ったり、交流を重ねています。

舛添 そうですか。実は、スリランカで一番最初に医師になられた偉い人というのは、日



日に留学生を案内して色々日本の文化を教えあげて。その時行政がインセンティブという事で多少のお小遣いを差し上げる。

小川 生きがい作りになりますね。

舛添 ええ、とってもいい事だと思うんですけどね。高齢者事業団でも何でも構わないと思いますが、行政が率先して活動していくことが大切ですね。

小川 国際交流の中での位置付けをきちんとして、国際化の中で留学生のお手伝いをして「自分は留学生に日本を教えているんだ」という様な意識を持ってもらえれば、肉体的にも精神的にも、澁刺としてくるのではないかと思っていますよ。

舛添 是非、先行的にやって頂くと有り難いですね。

小川 そうですね。繰返し言葉を教えるという事は、やはり年配の方でないときませんね。

舛添 フランス人のおじいちゃん・おばあちゃんはそのごく忍耐強く教えてくれるんです。若い人ではちょっとどうですかね。

小川 フランスでいい思い出を作った帰られて、フランスに対する気持ちが違うんじゃないかと思えますね。

舛添 やはり悪いイメージはありませんし、第二の祖国という感じですね。

小川 なる程。JICAに研修に来ている各国の人達も、これからその国の将来を背負って立つ人達ですから、何とか日本のいいイメージを持って帰って欲しいですね。

舛添 外務省なんかから、官費で研修等に来ると、本国だけ見ていけばいいと思って、草の根のところまで入って行けないんですよ。やっぱり市井の人達と喜怒哀楽を共にしていかないと、国際交流はうまくいかないんです。ですから、ボランティア等で土日に交流を深めて行く、最初のきっかけは行政でいいと思いますよ。

小川 そうですね。私たちは火付け役ですね。

舛添 是非！必ずやって下さいね。

小川 はい！それと、子供達にも若いうちに世界というものを体験させて、日本も世界のの一員として世界の人達とともに生きるんだという意識を持ってもらいたいですね。

舛添 県政の目的は、地域社会の活性化、コミュニティ化、そして草の根レベルの国際交流です。そういう事を促進するために、県政の旗振り役を小川さんに是非お願いしたいですね。

小川 是非ご期待に添えるように頑張りたいと思います。今日は遠くまで本当にありがとうございました。

小川一成「政策の5本柱」



◆都市基盤の整備
 ●常磐新線の早期着工
 ●公共下水道の整備
 ●文化施設の充実



◆自然保護
 ●今ある緑の保全と、新たな緑地の創造
 ●保存樹林制度の充実

◆社会福祉の充実
 ●高齢者にやさしい町づくり
 ●地域ケアシステムの充実

◆国際交流
 ●地方自治体・民間レベルでの国際交流の促進
 ●青少年の海外研修制度

◆生涯学習とスポーツ新興
 ●生涯を通じて心身の特性にあったスポーツ環境づくり



小川一成プロフィール

○昭和22年9月20日生まれ ○家族/父・母・妻・長女・長男・次男

■学歴
 ○守谷町高野小学校卒業
 ○守谷中学校卒業
 ○県立水海道一高卒業
 ○明治学院大学卒業(大学在中に1年間、欧州、アフリカ、中近東など諸外国を一人旅)

■経歴
 ○高野小学校PTA会長
 ○愛宕中学校PTA会長
 ○昭和47年タクシー会社設立
 ○守谷町商工会青年部長
 ○日本青年会議所関東地区褒章委員長
 ○第1回守谷町青少年海外派遣団団長として渡米

○水海道一高PTA会長
 ○守谷町国際交流協会会長
 ○小川交通㈱代表取締役
 ○守谷町議会当選2回
 ○ボーイスカウト守谷第1団副団委員長

○建設委員会副委員長
 ○守谷町緑の審議会副会長
 ○公共下水道運営審議会委員
 ○社会教育委員会議長
 ○常磐新線建設促進まちづくり対策特別委員会副委員長

「小川一成後援会」ご入会のご案内

守谷に生まれ守谷で育ち、世界を見て歩いてきた一人の青年が、いま、21世紀の茨城のために走り始めました。
 21世紀に備えたまちづくりをするべく重要な時期であればこそ、小川一成君のような実行力と親しみやすさを兼ね備えた若き政治ランナーが必要です。
 私たち茨城県民のために、いま、あなたの熱きご支援を必要としています。ご入会を心からお願い申し上げます。

後援会一同
 (キリトリ線)

- 「小川一成後援会」規約
- 名称・「小川一成後援会」と称します。
 - 目的・この会は、小川一成の政治活動を支援し、同君と共に明るく、住みよいまちを作るため努力し、その目的達成のため、後援会・研究会などの事業を行います。
 - 組織・この会は目的に賛同するものを会員として組織します。
 - 役員・この会は会長1名、役員若干名をおきます。
 - 運営・この会の運営は規約により行い、規約にない事項は役員会で決めます。
 - 経費・この会の経費は寄付金その他の収入をもってあてます。

小川一成後援会に入会を申し込みます。 平成6年 月 日

御名前	様 印	御電話番号
御住所		
御家族構成		

※同居の御家族が同時入会を希望される方はこの欄にお名前をお書きください。

